

教職大学院についての説明及びアンケート調査

【教職大学院についての説明及びアンケート調査】

- (1) 実施日時：平成 31 年 4 月
- (2) 対象：教育学部 4 年生
- (3) アンケート回収数：教育学部 4 年生 127 名
- (4) 説明及びアンケート実施概要：
別紙①の資料を配付し教職大学院の説明を行い，アンケートを実施した。
アンケート用紙は別紙②のとおり。
- (5) 説明内容：(別紙①) 平成 30 年 12 月実施と同様の内容を説明

○「教職大学院」の特徴

- ・複雑で多様な教育現場に対応するには，教育実践のプロフェッショナルの養成
 - *教育現場の複雑で多様な課題に対応できる専門的学識，問題解決能力
 - *教育現場（学校），家庭や地域社会，そこに関わる教師としての自己とを常にリンクさせながら見直し取組み続ける意思・俯瞰的視点

・改組後の本学教職大学院の特徴

- *学生のキャリアに応じた二つのコース「教職基盤形成コース（学部卒ストレート学生）」「高度教職開発コース（現職教員）」，さらに個々の課題に対応する三つのプログラム「教育課題探求プログラム」「教科授業力高度化プログラム」「特別支援教育高度化プログラム」の配置。

三つのプログラムを配置することにより，各教科教育，特別支援教育への対応を充実させる。

*カリキュラム

学生のキャリアに応じた授業，実習内容を展開するコース選択及び学生個々の課題に対応したプログラム選択を組合せ，多様なキャリアとニーズに対応する。

○本学教職大学院で取得可能な教員免許

現行の教職大学院で取得可能な幼稚園・小学校・中学校・高校専修免許に加え特別支援学校専修免許の取得が可能になる。

【アンケート結果】

別紙③

高度教職実践専攻(教職大学院)のご案内



○4年(学部)+2年(大学院)の学びの日々が、あなたが目指したい「教師」への道になります。

○確かな実践に出会い、子どもたちの未来を創造していく場です。

「教師」としての学びを深める



教育実習での学びを、さらに確かに行ってきた教職大学院での2年間でした。自分が本当に大切にしたいこと、授業観や子ども観を問いつける日々が、今現場で目の前にしている子どもたちへの言葉、姿に表れています。

(H29年度修了生より)



働きやすい職場を作りたい
◎専攻同士で事例を持ち寄り、学校現場の実践的学習を行います。

授業をもっと良くしたい
◎研究者職員と実務者職員の協働して、相互の授業づくりを支援します。

現場のニーズに寄り添う教職大学院です

実践的学習
◎実践的学習を通して、現場のニーズに寄り添う学びを行います。

学校課題の視野を広げたい
◎チーム学習を通じて多様な学校課題を捉えます。◎最新の授業観や内外の事例を参考に、システムワークシートでの解決方法を考えます。

私たちと一緒に学びませんか?
◎実務者から実践に関するプロセスを実践的に学びます。◎ICT等を活用した支援の在り方を学びます。

現場のリアルな姿をもっと知りたい
◎実務者を通して、現場のリアルな姿を学びます。◎最新の授業観や内外の事例を参考に、システムワークシートでの解決方法を考えます。

ニーズに応える適切な支援を学びたい
◎実務者から実践に関するプロセスを実践的に学びます。◎ICT等を活用した支援の在り方を学びます。

研究者職員
◎最新の授業観や内外の事例を参考に、システムワークシートでの解決方法を考えます。

ストレートマスター
◎ストレートマスターは、現場のニーズに寄り添う学びを行います。◎最新の授業観や内外の事例を参考に、システムワークシートでの解決方法を考えます。

お問合せ

教職大学院 広報担当

- 畔上一康
[azegami_kazuyasu@shinshu-u.ac.jp]
- 林 寛平
[kampei@shinshu-u.ac.jp]
- 宮島 新
[miyajima_arata@shinshu-u.ac.jp]

※詳しくは、教職大学院リーフレット並びに、上記連絡先へ

信州大学教職大学院の改組後のカリキュラム

学生のキャリアに応じた授業、実習内容を展開するコース・選択および学生個々の課題に対応したプログラム・選択を組み合わせることで、学生の多様なキャリアとニーズに対応する。

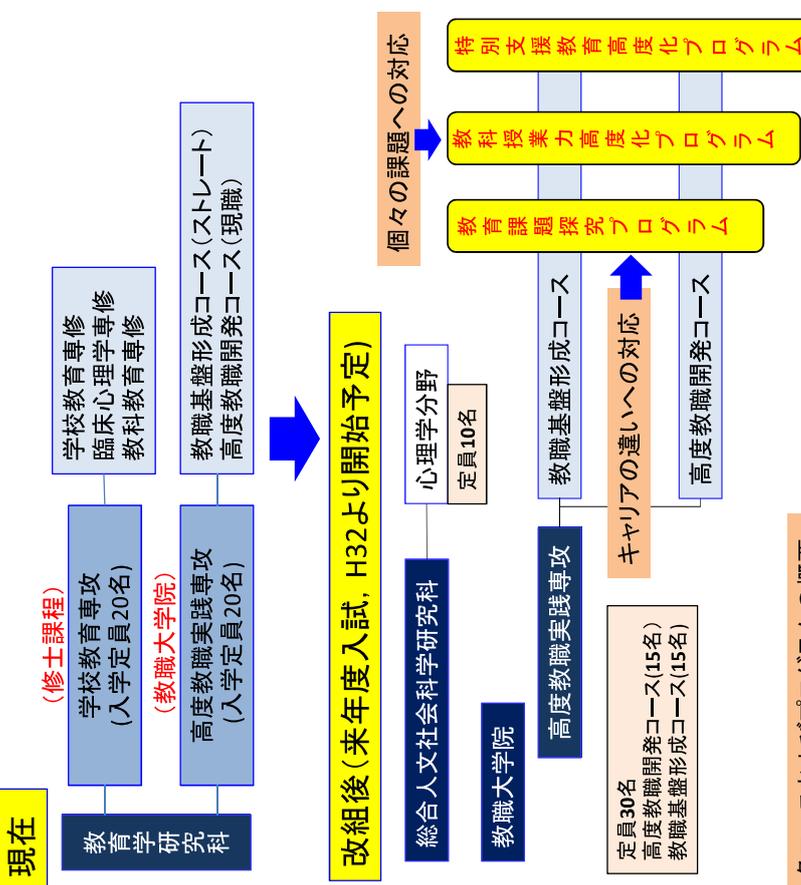
必修科目 (16単位)	指定5領域 + 5領域横断科目
コース科目 (5単位)	各コースに対応した科目
教育実習 (10単)	教科授業力高度化プログラム 特別支援教育高度化プログラム
形成 C	キャリアおよび個別の課題に対応した教育実習を実施
開発 C	個別課題に対応した選択科目群
選択科目 (14単位～)	<p>★教科領域から特定教科(5単位～)を含む(14単位～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科教育研究論 ・教育調査方法基礎 ・国語科授業内容研究 ・国語科教材開発演習 ・国語科授業分析演習 ・健康環境授業内容研究 ・教科課題特別研究 1 など <p>★特別支援教育に特化した専門科目(14単位～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児の理解と支援 ・病弱児の理解と支援 ・発達障害児の理解と支援 ・特別なニーズのある子どもの自立活動 ・通学等級における特別支援 ・教材開発研究(特別支援) など <p>★教科領域以外の選択科目(5単位～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校マネジメント ・校内研究の企画・運営 ・学校におけるICT活用 ・海外学校臨床実習 ・学校における学習の心理過程 ・学校における防災教育 など <p>★他プログラムからも選択可(2単位～)</p>

各プログラムの履修証明を発行

修士課程と改組後の教職大学院の比較

現在の修士課程・教職大学院	改組後の教職大学院
<p>修士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位 修士(教育学) ・小および中高各分野の教科に対応した専修免許状(一種免許状必要) ・各分野での研究テーマを掘り下げ、修士論文を執筆する ・臨床科目は選択 ・指導教員と1対1の指導が基本 <p>教職大学院</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小中高の専修免許状(特支はなし) ・学校拠点で、各校で深めるチーム演習など協働的に学び合うシステム ・教育課題中心で、教科課題の科目は少数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位 教職修士(専門職) ・特支の専修免許も対応 ・幼小、中高の各教科および特支に対応した専修免許状(対応する一種免許状必要) ・学校実習等、臨時的、実践的科目が多数 ・学校拠点方式、チーム演習等は、基本継承 ・主指導教員以外にも履修の指導教員が関わる ・選択プログラムを拡大し、教科の内容や、特別支援教育の内容を深めたりすることも可能に ・実践報告を執筆するが、教科や特別支援でも修論相当の論文執筆も副論文的に対応できるように計画

大学院教育学研究科では来年度改組を行います。現在、改組を行うため、文部科学省に申請の準備中です。そのため、以下の内容は予定であり、変更になる場合があります。



各コースおよびプログラムの概要

教職基盤形成コース	児童生徒に関する基礎的知識や技能の確実な習得に加えて、思考力・判断力・表現力等を育成する学びをデザインできる実践的指導力や、社会の変化に伴う新たな課題に柔軟に対応できる広い視野をもった教員を目指す(ストレート学生)
高度教職開発コース	上記に加え、様々な課題に対して学校現場でリーダーとして問題の解決を図る、いわゆるスクーラーリーダーとしての資質能力を持った教員を目指す(現職教員)
教育課題探究P	学校課題に即してチームの中で他の教員を指導できる力やマネジメント能力をより高める力をつける選択科目プログラム群
教科授業力高度化P	教科の基礎となる関連学問を元に、教科の専門性と教育実践とを結びつけ、高度な教科授業力を身につける選択科目プログラム群
特別支援教育高度化P	特別支援教育の各内容における専門性をより深めることで、特別支援教育における高度な指導力を身につける選択科目プログラム群

★マークのしかた



4年生向け教職大学院についてのアンケート

大学院に関する以下のアンケートにご協力下さい。

いずれの質問も、あなたが今、どう思っているかありのままを記入していただければ結構です。それぞれの質問で、自分の考えに最も近いものを選択してください。なお、このアンケートの結果について個人が特定されて公表されることはありません。ご協力お願いいたします。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

: 空白マーク : 正しいぬりつぶし : 不十分なぬりつぶし

回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

(1) 所属コースを選択してください。

- 現代教育 野外教育 国語教育 英語教育 社会科教育 数学教育
 理科教育 音楽教育 図画工作・美術教育 保健体育 ものづくり・技術教育
 家庭科教育 特別支援教育 心理支援教育

(2) 学部卒業後、そのまま大学院に進学したいという気持ちがありますか。

- ある 少しある あまりない ない

(3) (2)の質問で、大学院への進学に「ある・少しある」と答えた人はどのように受験を考えていますか。

- 大学院1本で受験 教員採用試験も受けて大学院を受験（合格留保の制度を利用）

(4) 大学院に進学したい場合、どの大学院に進学したいですか。一つ選択してください。

- 信州大学の教職大学院 他大学の教職大学院 その他

ご協力ありがとうございました。

学部新4年生ガイダンス時アンケート集計結果（H31.4.1）（対象者：127名）

	ある	少しある	あまりない	ない	無回答
①学部卒業後、そのまま大学院に進学したいという気持ちがあるか	14	29	39	44	1

	大学院一本で受験	教員採用試験も受験
②①で「ある・少しある」と回答した43名のうち、どのように大学院受験を考えているか	8	35
うち、①で「ある」と回答した者	6	8
うち、①で「少しある」と回答した者	2	27

	信州大学の教職大学院	他大学の教職大学院	その他
③どの大学院に進学したいか	50	13	14
うち、①で「ある」と回答した者	9	1	4
うち、①で「少しある」と回答した者	22	2	4
うち、①で「あまりない」と回答した者	9	7	2
うち、①で「ない」と回答した者	10	3	4

